

# 平成29年度の研究について

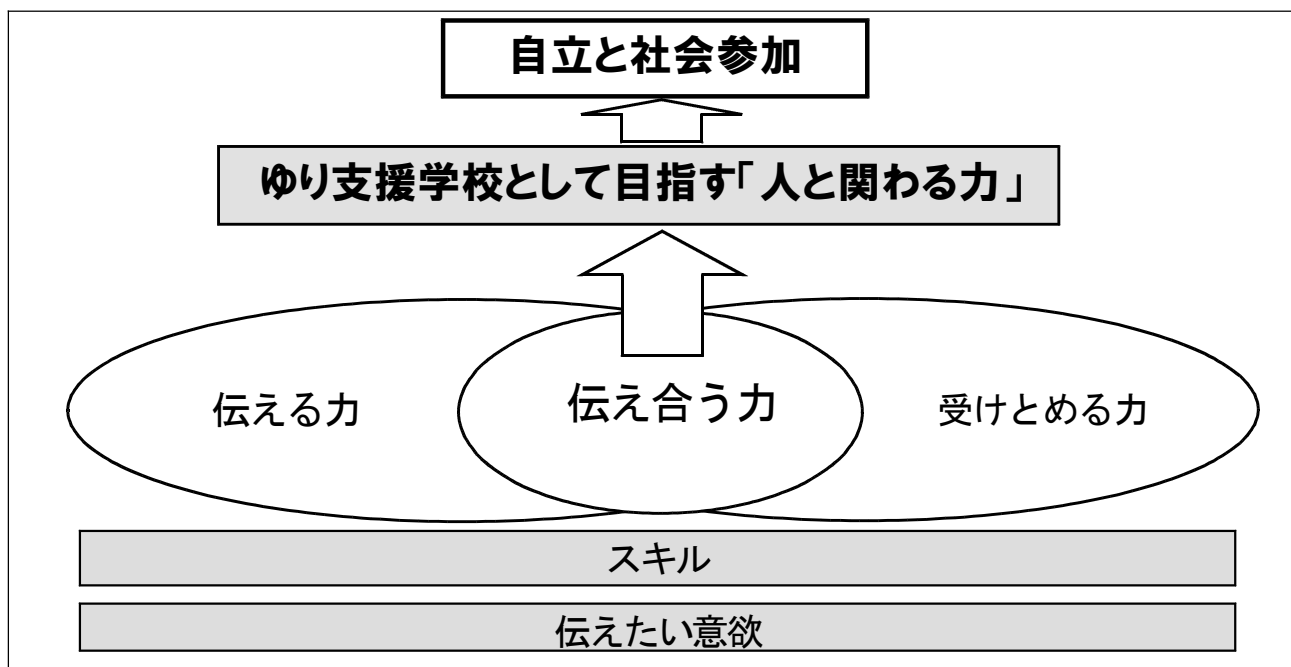
秋田県立ゆり支援学校

本校では平成27年度から「人と関わる力」に焦点を当てた研究に取り組み、今年度がまとめの年である3年目となります。今年度は、気持ちや考えを伝え合う姿を目指した授業づくりとして各学部、寄宿舎が一体となって研究を進めています。

## 〈研究テーマ〉

児童生徒一人一人の人と関わる力を高めるために  
～気持ちや考えを伝え合う姿を目指した授業づくり～  
(3年次／3年計画)

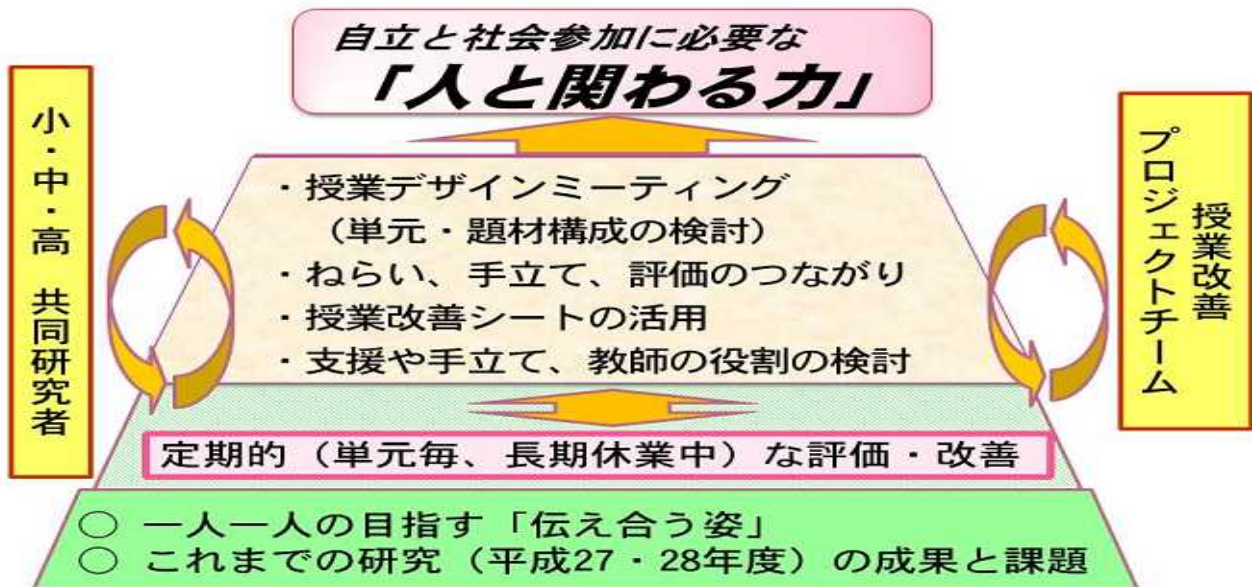
## 〈本研究について〉



- 人と関わる力を「伝える力」「受けとめる力」「伝え合う力」の要素に整理しています。
- 1年目は「伝え合う力」、2年目は「受けとめる力」を踏まえた「伝え合う力」、3年目は「伝え合う力」をさらに高めていくことに焦点を当てて研究を進めています。
- 3年間の研究のゴールは、「本校として目指す『人と関わる力』を明らかにすること」「その力を育成していくために教育課程に反映させていくこと」としています。



## 〈研究仮説〉



- 一人一人の目指す「伝え合う姿」とこれまでの積み重ねを基に、授業デザインミーティング (単元・題材構成の検討) を実施する。
- 授業改善シートを活用し、ねらい、手立て、評価のつながりを意識して授業実践を積み重ねる。また、定期的に評価、改善する。
- その際、共同研究や授業改善プロジェクトチーム (※) を活用して目指す姿に迫る。
- これらを積み重ねていくことで、伝え合う力が高まり、自立と社会参加に必要な「人と関わる力」につながっていくであろう。

### ※共同研究とは？

- 小・中学校、高等学校の教諭を1名ずつ、共同研究者として委嘱し、各学部に年5回程度来校していただきます。
- 今年度は、由利本荘市立岩城小学校の佐々木紀子教諭、由利本荘市立大内中学校の安井伸也教諭、秋田県立仁賀保高等学校の大石史子教諭に委嘱しています。
- 「『問い』を發する子どもの育成」「秋田の探究型授業の推進」の視点で助言、提案をしていただきます。
- 5月の事前研究会では、めあてと振り返りの整合性を図ることや思考を整理するという視点での話形の紹介など、参考となる提案をいただいています。

### ※授業改善プロジェクトチームとは？

- メンバーは、各学部副主事、教育専門監、地域支援部主任、研究主任、各学部の研究推進者です。
- メンバーは、各学部の授業デザインミーティングに参加したり授業参観したりして、授業づくりに対して、助言、提案します。
- チームのリーダーは、授業研究会等で話題になったことを通信としてまとめ、全職員に紹介します。

## 〈研究内容及び方法〉

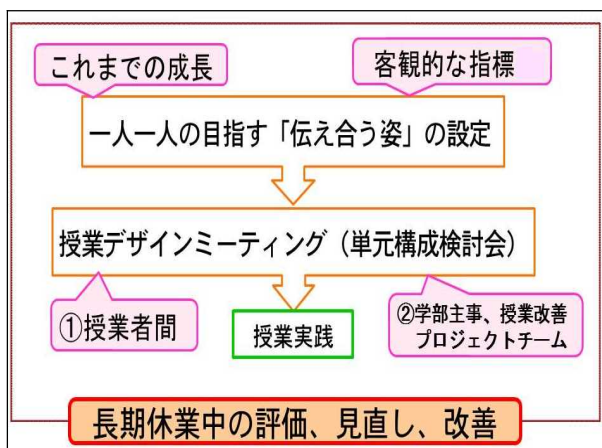
### 1 一人一人の目指す「伝え合う姿」に迫るための単元・題材計画の作成及び評価・改善 ※〈図1〉参照

- (1) 一人一人の目指す「伝え合う姿」の設定、共通理解
  - ・昨年度までの評価と客観的な指標を基に、目指す「伝え合う姿」を設定します。
- (2) 目指す「伝え合う姿」を基にした単元・題材計画の作成
  - ・年度初めに授業デザインミーティング（単元構成検討会）を2回実施します（1回目～授業者間、2回目～学部主事、授業改善プロジェクトチーム等を交えて）。
- (3) 長期休業中における目指す「伝え合う姿」の評価、単元・題材計画の見直し
  - ・長期休業中に評価、見直しを図り、2学期の指導支援に生かします。
  - ・学級担任間だけではなく、学部内の教職員内で共通理解を図ります。

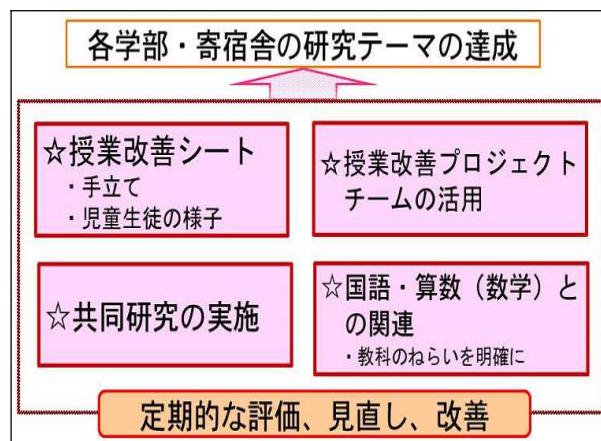
### 2 気持ちや考えを伝え合う姿を目指した授業実践、評価、改善 ※〈図2〉参照

- (1) 授業改善シートを活用した授業実践、評価、改善
  - ・昨年度に明らかとなった「効果的な手立て」を基に、手立てのポイントを焦点化して実践します。
  - ・教師の手立てや児童生徒の変容について、定期的に評価、改善を図ります。
- (2) 授業改善プロジェクトチームを活用した授業づくり
  - ※〈研究仮説〉の「授業改善プロジェクトチームとは」参照
- (3) 共同研究の実施及び活用
  - ※〈研究仮説〉の「共同研究とは」参照
- (4) 教科等を合わせた指導と国語、算数（数学）との関連
  - ・授業デザインミーティングや長期休業中の単元計画の見直しの中で、教科として取り組む内容を整理します。

〈図1〉一人一人の目指す「伝え合う姿」に迫るための単元・題材計画の作成及び評価・改善



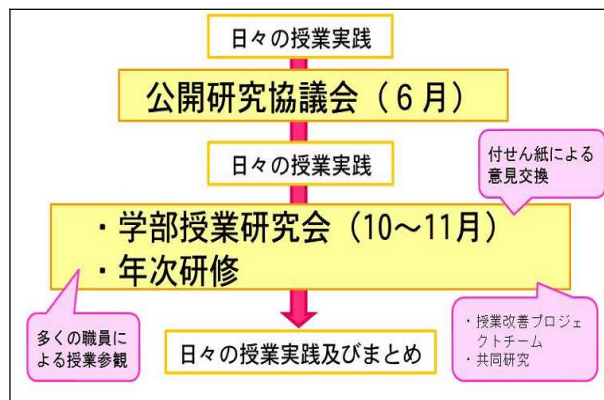
〈図2〉気持ちや考えを伝え合う姿を目指した授業実践、評価、改善



### 3 公開研究協議会や授業研究会による多くの視点からの授業改善 ※〈図3〉参照

- ・ 6月の公開研究協議会で得た多くの助言、提案を今後の授業改善及び3年間の研究のまとめに生かします。
- ・ 後期には、学部授業研究会を実施し、今年度の取組の成果を明らかにします。

〈図3〉 公開研究協議会や授業研究会による多くの視点からの授業改善



### 4 学部・寄宿舍の系統性を踏まえた目指す「人と関わる力」の整理、教育課程への反映

- ・ 整理する項目等を明らかにして、各学部、寄宿舍ごとに授業実践、検証を基に整理します。
- ・ 教育課程へ反映させていくために、教務部をはじめ、各分掌部と連携して具体化させていきます。